

裏磐梯の絶滅危惧種 花

1・目的

昨年調査したオキナグサ、トキソウ（2カ所）、セイタカスズムシソウ、及びサンリンソウと近くにあったチョウセンゴミシを調査する。

2・結果

磐梯山のオキナグサは去年の6月7日に行ったときは既に咲き終わり種を付けていましたので今年も5月28日の調査で7割近くは花が終わっていました。

サンリンソウ、チョウセンゴミシ、トキソウ、セイタカスズムシ、などの調査対象種（地点）については、前年に比べて大きな変化はなかった。

3・考察

生育にマイナスの要因と思われるもの

- 1) 自然の遷移による
- 2) 園芸の為の採取
- 3) 湿原の開発
- 4) 森林の伐採
- 5) 気候の変化

裏磐梯では主なる原因は1)、2)、3)、5)などが考えられる。

4・対策

- 1) 環境省などが保護に力を入れてもらう。そして盗掘の取り締まりをする。
- 2) 民間の自然ガイドなどを監視員に委嘱し、巡視の協力をしてもらう。
- 3) 当該地点については特定の監視員等のみが把握し、一般への公表は控える。
- 4) 子供達に生物多様性の大切さを教える。

以上のような点をふまえて、早急なる保護対策が必要と思われる。

5・概要

平成28年5月28日

平成28年5月28日

平成28年6月25日

平成28年7月28日

調査者 友坂 豊

調査項目及び結果 以下に示す